

2009年4月10日
石油化学工業協会

ニュースリリース

日中石油化学 協会交流について

石油化学工業協会（会長：藤吉建二・三井化学株式会社 社長）と中国石油和化学工業協会（李勇武会長）とは、4月9日に東京・グランドプリンスホテル高輪において第三回日中石油化学 協会交流を行った。

日中石油化学 協会交流が開催されるのは、2005年11月に中国・浙江省余姚（ユウヤオ）での開催に引き続き三回目である。

協会交流は、会議と歓迎会で構成され、会議については日本からは藤吉健二会長、高橋恭平副会長（昭和電工株式会社 社長）、大宮秀一副会長（出光興産株式会社 副社長）他計7名が参加し、中国側からは李勇武会長、顧宗勤・中国石油和化学工業規画院長他計4名が参加した。

両会長の挨拶の後、「石油化学産業の現状と金融危機への対策」というテーマで、日本側からは高橋副会長がプレゼンテーションを、中国側からは李会長が発表を行った。続いて、「省エネ・環境に対する取り組みー日中両国の協力の可能性について」というテーマで日本側から大宮副会長がプレゼンテーションを、中国側から顧院長が発表を行った。

プレゼンテーションの後、両協会は金融危機への対策や省エネルギー・環境について質疑応答をふくめ活発に意見を交換した。中国側は省エネ・環境、技術向上、直接投資などの分野における交流に大きな関心を示した。

また、両協会は次回の協会交流を2年後に開催をすることを目処に両協会の窓口で詰めることとした。

会議後は石化協会員会社のトップ10名が加わり歓迎会が開催され、更に両協会の親交を深めた。

以上